



ロック解体新書 ボーカル編

文・伊丹谷良介

THE YELLOW MONKEY 太陽が燃えている

～温故知新な色あせないボーカル～

通称「イエモン」として知られるレジェンドロックバンド、THE YELLOW MONKEYの1995年にリリースされた通算8枚目のシングルが「太陽が燃えている」だ。

イエモンの魅力の1つは吉井和哉（Vo）の書く文学的な歌詞と、どこか懐かしさや切なさを感じさせる独特のメロディラインだが、ルーツとなっているのは昭和の歌謡曲と、1970年代前半にイギリスで流行した「グラムロック」である。この楽曲は、その2つの音楽の要素がミックスされたイエモンサウンドと歌唱が魅力だ。

歌詞の世界観を際立たせる歌唱法……………

この楽曲では、曲名に相応しい力強いバンドサウンドのイントロから一転、Aメロに入るとまるで物語を語りかけるように歌っている。これはリスナーを歌詞の世界観に違和感なく導くためであり、特にAメロの歌詞は情景をイメージさせる言葉が多く、そのイメージを描きやすいように丁寧に歌っていることがわかる。

また、フレーズの語尾には必ず16分音符のビブラートをかけているのだが、ビブラートにも様々な種類がある中で16分音符のビブラートを入れることによって、シェイクパターンのリズムに乗りロック感やグルーブ感を共有している。

Bメロに入ると、アクセントをうまく取り入れて場面展開のスイッチにしている。冒頭の「♪胸の真ん中を～」の「む」の部分で強くアクセントを付けて歌うことで勢いがつき、歌詞の熱い思いをバンドと共に強調する効果が出ている。

全体を通して、メロディの最後にシンコペーションが出てくるが、しっかりと楽曲のグルーブに合った音符と強い発音・発声で表現さ

れている。実際に歌う場合は、サビではAメロやBメロとは異なり、アクセントの強弱をよりはっきりとし、声量を上げ、表現の起伏を激しくすることが重要だ。それによって、歌詞のメッセージとして一番伝えたいサビがしっかりと印象に残るのである。

特徴的なコーラスライン……………

サビの注目すべき点としてコーラス（ハモリ）が挙げられるが、サビのフレーズの前半のみハモることによって、ゴージャス感とサウンドに広がりを持たせる効果を演出している。

コーラスにはコードとメロディに対して様々なラインの作り方があがるが、この楽曲のサビのハモリはメインメロディを上下で挟み、上はステイの2音、下は1小節ずつ半音で上がっていくというシンプルかつ、ベースラインとも被らない、とても特徴的で効果的なラインになっている。

ちなみに、サビのコード進行も秀逸で、3小節目のコードは調性的にはF#mなのだが、メジャーコードにして下のコーラスパートがメジャー3rdにいくことによる高揚感を出している。

譜例 サビのコーラスライン。和音構成を「転回」させた秀逸なハモリ

参考にするなら、この曲もオススメ！



T.REX 20th Century Boy

グラムロックを代表するイギリスのバンド、T.REXの1973年の代表曲。日本では2008年公開の映画「20世紀少年」のテーマソングとしても有名。シンプルながらも力強い歌唱と演奏は多くのアーティストにカバーされ続けている。



沢田研二 勝手にしやがれ

昭和歌謡を代表する大スター、沢田研二のソロ転向後の4thシングル。憂いのある歌唱と奇抜なファッション、メイクなどグラムロック的な要素を取り入れた独特のスタイルは後のボーカリストに大きな影響を与えた。1977年リリース。



ロック解体新書 ギター編

文・岩尾 徹

SCANDAL Image

～楽曲の魅力を引き立てるツインギター～

「Image」は、大阪のボーカル&ダンス教室出身のメンバーで構成され、平成のガールズバンド人気を支えた SCANDAL の 2014 年にリリースされた 20th シングルだ。テレビ番組「国際女子クラブサッカー選手権 2014」の公式応援ソングとしても使用された。

軽快な疾走感の中にも重厚なサウンドが感じられるところが魅力的な楽曲だが、そのサウンドの要となっているのは、計算された 2 本のギタープレイにある。

役割分担が明確なバックングプレイ・・・・

この楽曲は、セクションごとに 2 本のギターの役割分担がはっきりしている。1 コーラス目だけをみても、2 回繰り返される A メロはギターアプローチを変化させることでサウンドを徐々に盛り上げるアレンジになっている。1 回目は 2 本のギターが音域を変えたタイトな 8 分音符のミュート奏法で弾いているが、2 回目は全音符と 8 分音符のカットングに…といった感じだ。

B メロは、片方のギターがハードな歪みで 2 拍 4 拍でのリズムを前面に出したドライブ感溢れるコードバックングをしているのだが、これだけだとメロディに対して少しリズムが立ちすぎるため、もう 1 本のギターが透明感のあるアルペジオ主体のゆったりとしたフレーズを弾いて、ドライブしたサウンドの中にしなやかさを感じさせている。これが 2 コーラス目ではコード進行や構成を若干変えながら、また違うアプローチが行われている。

サビは 2 本とも 8 分音符中心のバックングだが、ルート強調するパワーコードがメインのバックングと、和音感を出すために

1 弦から 4 弦あたりを意識したバックングに振り分けることで、トータルなサウンドに広がりを出している。

ギターソロ前のインターロールドセクションでは、途中から入ってくるリズムパターンが異なる 2 本目のギターが効果的だ(譜面)。一定のパターンでカットングしているギターの休符部分に、もう 1 本が別パターンのカットングで絡んでくるポリリズム的なアプローチは、ツインギターの際によく用いられる手法だが、2 本ともシンプルなフレーズでその効果を十分に出している。お互いのフレーズの休符を意識してカットングすることで、リズムの絡みが複雑になり、グルーブ感が増している。



譜例 テンポ = 110 ぐらいで友達と 2 人で実際に弾いてみよう

2 本のギターの音色に違いを出す・・・・

2 本のギターでこの楽曲のようなアプローチをする場合は、弾くフレーズに適した音色をチョイスすることが重要だ。

バンドで演奏する時は、パワーコード系のベーシックなバックングをする方は「ディストーション」系のエフェクターを使用してハードに歪ませ、1 弦から 4 弦あたりをメインにアルペジオやカットングをする方は音の分離を考慮して「オーバードライブ」系のエフェクターで歪ませると良いだろう。

参考にするなら、この曲もオススメ！



KANA-BOON なんでもねだり

ポップでキャッチーなメロディが魅力的な KANA-BOON の 2015 年にリリースされたメジャー 6 枚目のシングル。1st アルバム収録の「ないものねだり」をもっている。派手さはないが堅実なツインギターのプレイが好感。



KEYTALK スターリングスター

ノリの良い楽曲スタイルが持ち味のバンド、KEYTALK の 6th シングル。アニメ「ドラゴンボール超」のエンディングテーマ。コードバックング主体のパートとメロディに絡むフレーズのパートのツインギターが印象的。2015 年リリース。



ロック解体新書 ベース編

文・山田潤一

米津玄師 Lemon

～オトナな「跳ねる」グルーヴと緊張感～

日本を代表するシンガーソングライター、米津玄師の2018年にリリースされたメジャー8枚目のシングルで、テレビドラマの主題歌として書き下ろされた楽曲がこの「Lemon」だ。様々なジャンルを作曲する多彩な米津だが、この楽曲ではコンピューターによる打ち込みと生楽器がほど良いバランスで混ざり合ったR&Bテイストなサウンドになっている。

ベースも、シンプルで「オトナな」ラインに聴こえるが、このグルーヴを出すのは簡単ではない。

裏拍で「跳ね感」を出す・・・・・・・・・・

この楽曲は、「シャッフル」という、俗に「ハネもの」と呼ばれるリズムになっている。シャッフルとは、3連符の2つ目の音を抜いたスキップするようなリズムのことで、この楽曲では16ビートをシャッフルにした「ハーフタイムシャッフル」と呼ばれるリズムになっている。落ち着いた印象の楽曲に跳ねたリズムを合わせることで、グルーヴ感あるオトナなアレンジに仕上がっている。

ベースは、全体的にロングトーンでシンプルに楽曲を支えているが、その中でポイントとなるのは「裏の裏」と呼ばれる16分音符4つ目部分だ。ハーフタイムシャッフルを6連符と解釈すると6つ目部分となる。ハネものは、この音符を弾くことで跳ねた感を強調することができ、リズムの裏を意識しながら弾くことによってグルーヴも自然と出てくるようになる。

例えばAメロは、1コーラス目では全音符のロングトーンで弾いているのに対して、2コーラス目では2、4拍目に休符を入れることで裏拍を弾くタイミングを作り出している。この時のポイントは

バスドラムと一緒に演奏されている裏の裏、16分音符4つ目の音符で、これらによって跳ねたリズムが際立ってグルーヴィーなリズムになっている（譜例）。また、1拍目などの4分音符を切る休符も大切だ。クラップして踊っているかのようにバックビートの緊張感が増している。

演奏する時は、ハイハットをイメージしてリズムを感じると良いだろう。大切なのは、どんなフレーズの場合でも「跳ねる」感覚をずっとキープし続けることだ。



譜例 ドラムのハイハットをイメージして弾くと裏拍を感じやすい

弾かない大切さ・・・・・・・・・・

この楽曲は音の抜き差しが非常に多いが、それによって緊張と緩和を生み出している。ベースも同様に弾かない箇所が多く、それが1つの特徴になっている。ベースは良くも悪くもサウンドへの支配力が強く、抜き差しするだけでも楽曲の印象に大きな影響を与える。この楽曲でも、ベースをあえて弾かない部分を作ることによって、次に弾いた時の存在感がより強くなっている。

難しいフレーズや細かいフレーズもなく、一見簡単そうな演奏に聴こえるかもしれないが、こういった「弾かない緊張感」を理解してプレイすることができたら、オトナなベーシストとして大きな成長となるだろう。

参考にするなら、この曲もオススメ！



小沢健二 featuring スチャダラパー 今夜はブギーバック

「オザケン」の愛称で人気を博したシンガーソングライター小沢健二と、ヒップホップグループ、スチャダラパーによる1994年リリースのシングル。打ち込みのループサウンドだが、ベースラインはシンプルで休符感がわかりやすい。



TOTO Rosanna

アメリカのロックバンド、トトの1982年にリリースされた大ヒット曲で、ハーフタイムシャッフルと言えど…というほどの代表曲。軽やかなリズムのハネ具合によって生み出される世界最高峰のグルーヴを体感して欲しい。



ロック解体新書 ドラム編

文・辻伸介

the peggies BABY !

～元気良いテンポキープとシンコペーション～

“胸キュン” オルタナポップ・3ピースバンド、the peggies の2017年にリリースされたメジャー 2nd シングルであるこの「BABY !」は、元気満載なリズムと彼女達ならではの歌詞やコード進行から生まれる「胸キュン」が詰まったポップチューンだ。

ボーカル&ギターの北澤ゆうほの書くポップな歌詞とメロディ、そしてチャミングな歌声が印象的な楽曲だが、それらを見事にバックアップするドラミングにも注目だ。

テンポキープで元気良く・・・・・

バンドでドラムを演奏する場合、テンポが一定かどうかを気にしながら「元気良く」叩くのは簡単ではない。しかし、この楽曲のドラムプレイはほとんど乱れがないほどにテンポキープがされ、なおかつ、とても元気の良さを感じる。クールなテンポキープと、ホットなメンタルが同居しているかなり高度な演奏だ。

全編通してフレーズ的にはさほど難しくはないが、イントロやサビ、大サビなどの頭打ち、1コーラス目Aメロのバスドラムの4分打ち、ハーフタイムになるBメロ、キメやフィルインなどが146という速いテンポでキープされている。レコーディングだから…という面もあるが、こういった現代のパンキッシュな楽曲にはテンポキープが欠かせない。

このような演奏できるようになるには、相当な練習量が必要だ。すなわち、テンポキープのことを考えなくても大丈夫なくらいにメトロノームを使った個人練習をたくさんする必要がある、ということだ。その上で、特にサビの「頭打ちフレーズ」などが初めて「縦ノリ」ぎみに元気良く楽しく演奏できるのである。気分任せてテ

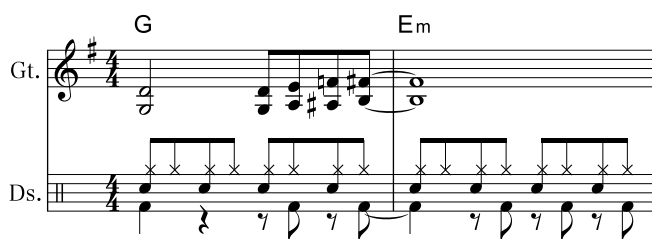
ンポがルーズになると、この楽しさは逆に出ない。「ハートは熱く、頭と体は冷静」なプレイのお手本だといえよう。

多彩なシンコペーション・・・・・

「シンコペーション」とは、強拍（小節の第1拍目）が前の小節へ食い込んでいくようなリズムのことで、単調な拍子にアクセントを加えるアレンジ方法の1つだ。この楽曲のドラムパターンは、サビの頭打ちフレーズもAメロのスタンダードなフレーズも、ギターリフや歌のメロディに呼応しながら多彩なフレージングでシンコペーションしている（譜例）。

しかし、フレーズやアクセントにすべて合わせているわけではなく、合わせる部分とあえて合わせない部分を作っているところがポイントだ。こういったパートアレンジをすることによって、ギターリフやメロディのアクセントを強調することも、ギターフレーズやメロディに一種の浮遊感を出すこともできている。

コピーする時には、ドラムのパターンと他のパートのシンコペーションフレーズを聴き比べてみると良いだろう。



譜例 サビのシンコペーションのギターとドラムのフレーズ

参考にするなら、この曲もオススメ！



Janis Joplin Move Over

アメリカの稀代のシンガー、ジャニス・ジョプリンの代表曲の1つ。イントロからスネアの頭打ちパターンがドライブし、タイトなバンドの疾走感を引き出している。1971年リリースの遺作にして4枚目のアルバム『Pearl』に収録。



LINDBERG 今すぐKiss Me

アイドル歌手だった渡瀬マキを中心に結成されたバンド、LINDBERGの2ndシングル。テレビドラマの主題歌に起用され大ヒットし現在もカバーされることが多い。元気のいい歌と演奏がポップ&パンキッシュでゴキゲン。1990年リリース。



ロック解体新書 キーボード編

文・竹中敬一

KAN 愛は勝つ

～色褪せない力強いフレーズ～

「愛は勝つ」は、令和5年11月に61歳の若さで亡くなったシンガーソングライター、KANの1990年にリリースされた8枚目のシングルだ。国民的「応援ソング」として世代を超えて親しまれているこの楽曲は、湾岸戦争やバブル崩壊など、社会が大きく変化し始めていた時代にシンプルで力強い歌詞とメロディがヒットした。

近年、キーボードで弾き語りをするシンガーソングライターも増えているが、コードバックキングや歌だけではなく、わかりやすさの中に潜ませた秘密がある。

愛される理由はメロディの力強さ……

この楽曲の構成は少し変わっていて、メロディやコード進行などの変化による、A、B、サビといったセクションの区分けが明確ではない。基本的にはキー（調）が変わることでセクションの移り変わりと同じ効果を出しているのだが、コード進行の構造は同じなのでガラッと変わった感じを受けない。また、メロディの起伏とこ

(key=D)「♪心配ないからね～」

↓
(key=B)「♪ Carry on～」

↓
(key=D)「♪ 夜空に流星を～」

↓
(key=B)「♪ Carry on～」

↓
(key=D)「♪ 心配ないからね～」

↓
(key=E)「♪ どんなに困難で～」

ろどころ違いはあるが、リズムは8ビートに忠実に際だった世界観の変化はない。

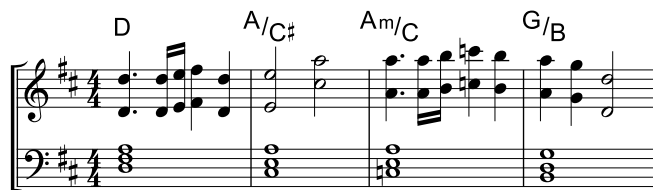
ではなぜ、長年にわたって愛され続け、たくさんのミュージシャンによってカバーされる楽曲になったのか…。それは、この楽曲の歌

詞とメロディがとにかく印象的で力強く、余計な小細工がまったく必要なかったということに尽きるだろう。

印象に残るオクターブでのピアノリフ……

もう1つ、この楽曲には力強いフレーズがある。イントロの他、いくつかの場所で聴こえてくるピアノリフだ（譜例）。楽曲を知っている人であれば、このリフを聴いただけで全体像がイメージできるほど重要なピースとなっている。ビリー・ジョエルを彷彿させるようなピアノプレイだが、オクターブで弾くことによってメロディラインを強調させている。特に、楽曲の冒頭はピアノソロなので、右手のオクターブでの演奏は重要だ。

こういったオクターブフレーズを演奏する場合は、指の間隔を固定させて親指だけを目で追えば良い。どの鍵盤を弾いてもオクターブ上の音がきちんとついてくるようにしっかりと指の間隔をキープしよう。ただ、このテンポでフレーズに出てくる16分音符を軽やかにオクターブで弾くことは難しいので、この部分だけ指の入れ替えをして弾いても良いだろう。しかし、このリフによって前向きな気持ちが表現されているので、ニュアンスを大事に演奏しよう。



譜例 イントロのピアノソロフレーズ

参考にするなら、この曲もオススメ！



Billy Joel Uptown Girl

アメリカの世界的シンガーソングライター、ビリー・ジョエルの9thアルバム『An Innocent Man』からのシングルカット。KAN本人が「愛は勝つ」誕生にインスパイアされたと公言する楽曲。力強いビートが楽しい。1983年リリース。



大事 MAN ブラザーズバンド それが大事

男女混成の大事 MAN ブラザーズバンドの1991年にリリースされた3rdシングル。テレビバラエティ番組のテーマ曲として使われ大ヒットした。わかりやすく力強い歌詞とメロディは応援ソングとして愛され続け、カバーバージョンも多い。